

## 伝統的社會意識について

四年次生 安河内 民 代

私達が地方に旅行し、その地方の生活様式や人間の行動に触れる。その時、私達の都市生活とは何か異なる行動様式や表現を持っていると感じるのである。この様な人間の行動や表現の根底には潜在的意識が作用していると考えられる。そこで先に述べた事を伝統的社會意識の作用として見る事にする。ある一定地域に存続していると思われる伝統的意識と云う所に目を向け、この様な伝統的社會意識がどれ程住民の社会的行動や社會關係に影響を持ち、社会的位置を持つかという事から調べる事とした。

ではこの伝統的社會意識は何を意味しているのであるか。意識と外部的表現とが結びついて初めて社会的行動が生まれてくる。そこで、葬式や祭りでは、住民は互にその地域の他の住民と同じ社会的行動をしようと云う場合、そこに伝統的社會意識が多分に作用していると考えられる。従って昔から伝承されて来た意識が在る。しかし意識には、新しく産業組織の発生につれて生まれて来る近代的社會意識も存在すると思われる。たとえば都会生活の中で「隣りは何をする人ぞ」と云う言葉の様な近所づきあいの仕方、この様にさせている行動には、近代的社會意識が作用していると考えられる。この両者が、一定地域でいかなる形を取っているかを調べる必要がある。

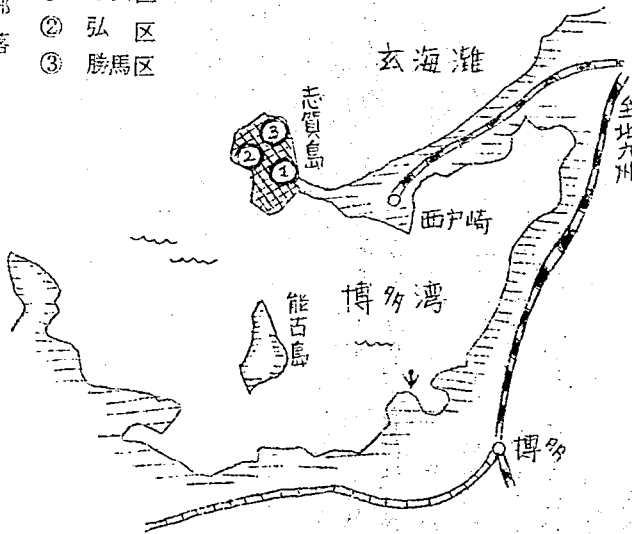
次にこの様な調査に適合する場所とはいかなる所が良いであろうか。伝統的社會意識と近代的社會意識の組み合わせの調査結果が興味深く出る所と云う事からこの社會意識が入りまじって社會行動に現われていると感じられ、又毎年行き慣れ方言を理解出来る都合から福岡県の博多の対岸にある志賀島を対象地とする事に決めた。

この地は、昔から生活維持は自給自足で行なわれ、又現在も島民のほとんどは第一次産業で生活を維持し、そこでは、我々にとって非合理と思われる社会的行動が合理的であるかのごとく存在している。それと同時に近代的社会行動も資本主義経済の侵入に伴って存在している。それらがどの様なからみあいを行なっているかと云う事を調査したのである。

実態調査では、伝統的社會意識から調べる事とし、その為、その社會意識を十分に含んで行動する具体的表象であると考えられる年中行事、神仏信仰、冠婚葬祭、組合組織など、又地縁、血縁集團における色々な行動様式をアンケートによって調査したのである。調査対象は志賀島の全戸数七七〇戸の一割である。結果を記す前に、志賀島の概況を簡単に説明しよう。

この島は白砂青松、大変風景がすばらしく、その為、国定公園となつている。国民宿舎や国民休暇村も建設されており、福岡の保養地としても有名である。その為、観光に対する志賀町の力の入れ具合は、大変なものであるが、喜んでゐるのは、商売の人達だけで後の島民は直接関係の無い為か「又、ほこりをたてて通つていった」とこぼしている。又この島は、歴史的に大変古く、日本書紀や万葉集にも書かれており、鎌倉時代には元寇の洗礼をうけて、その記念碑が博多湾をみおろしている。

- 志賀区  
弘馬区  
①  
②  
③  
部落



この島を有名にさせたのは、金印発掘地と云う事であり、町としても文化的史蹟や、無形・有形文化財などを大切に保護している。次に島の集落分布をみると、島は、三部落に分れている。地図にあるとおり①志賀区は、博多と隣接しなる入口にあり、住民の家屋が密集し、道路は迷路に成っており、島の中心地でもある。その為、役場やその他公共施設がそろっている。人口二五八〇人、戸数五五〇戸、職業は漁業（二五〇戸余り）農業（一五〇戸）その他商業、サラリーマンとに分けられている。②弘区は、博多湾側に面した小さな部落で海そばに民家が立ち並び、人口五八〇人、戸数一二〇戸、職業は、漁業がほとんどである。昔は半農半漁であったそうだが、現在は沿岸漁業や、ワカメ、ノリにより生活維持をしている。③勝馬区は玄海に面した所から二・三〇〇m奥にはいり、勝馬盆地と云って島唯一の耕地を所有し、稲などが作られている。人口四二八人、戸数九六戸で昔は純農業であったそうだが、現在は兼業がほとんどである。さて志賀島を全体的にみると農家の場合、果樹栽培に大きく力を入れ、ピワ、みかん、イチゴとその他のくだもの類で成功し、又漁業、農業ともに博多の市場をひかえて生活は安定している。

次に調査結果について述べよう。調査対象は、先ほど述べた全戸数の一割、七八戸である。これらの年令別をみると二〇〜五〇才代が平均二二〜三人わりとなっており、それらの世帯主職業では、漁業三分の一、農業（兼業も含む）三分の一、その他第二・第三次産業に関係する職業の人が三分の一とに分れ、その年間収入範囲では、六〇〜一〇〇万円が三分の一、次に一五〇万以上、さらに一〇〇〜一五〇万円と順位を示し、第一次産業が多いだけに自給自足の面から生活は豊かどみられ、農業においても、漁業と同様に博多と云う市場がある事により大きな現金収入がはいる。家族構成人員も平均五〜六人で、各々の家庭にも、全体的にも高齢者が非常に多かった。通婚圏でも、地域内婚で、又部落内でもいったり来たりし、通婚圏は現在でも特に広いとは云えない。次に地域内役職への就任も半数以上の人達が就任し、民主的であると考えられる。土地所有では、これも半数以上の戸数の家が所有していた。農家の経営面積平均は五〜六反と零細で、山地を利用してゐる所から気候の温暖を利用し

て果樹栽培が始められた。しかし現在は農業をやめて狭い土地だけを所有している家も少なくない。家庭内においては、電気製品は皆と云っていいほど備わり、特にマス・コミに関してテレビの普及率は一〇〇%と云う結果を示した。以上が調査対象の説明である。

次に伝統的社會意識からの行動様式に対する反応を見る事にする。

#### (一) 年中行事

年中行事は、その役割として年内の或る時期に特殊な社会的行動を持つとともに住民のリクリエーションをも兼ねている。そこでこの志賀島における年中行事を集团的参加と個人的参加の点で分けると次の表(1)になる。これらの年中行事に対してほとんどの家庭又個人が参加し、支持していた。又これらを職業別に分けると表(2)の様になり、現在多く続いているのは神仏関係である。これらは主に祭など一語に毎年続けられているが、農業、漁業の職業的なものは、徐々に簡素化し、ほんの形式の傾向を示している。島民等は特に神仏に關する行事は島の誇りとして傳承していきたいとの希望を持っていた。地区別にみるとまず職種の相異から年中行事のちがいが出、その例では、勝馬区での農業行事(さなほりなど)弘区での漁業行事(龍宮祭など)、この二区は自然から生計をたてている事から縁起をかついだ行事が現在でも少々ではあるが続いている。又一方地縁的結びつきをリクリエーションとともに強化していた。しかし志賀区においては、新しい意識が影響し、又職業的にも会社づとめなどから行事が変化してくる傾向がみられた。表(3)

#### (二) 神仏信仰

自然村には昔から精神的統一を行なってきた氏神が存在するのが一つの特徴であるが、この地でも綿津見三神をまつる志賀海神社が氏子集団に限り、大切に守られており、年中行事の中にも、神に關するものが多い。又どの家にも神棚と仏壇の両者がきちんと備わり、毎日掃除されている。しかし仏教(禪宗)意識は島民の間には、氏子意識におさえ、小さくなっている。従って神社では、現在でも宮座制度が続き、毎年、おくん

ちの時にその年に生まれた男児に座が決められ、隠居の時期にその役割がまわってき、氏子として役目をはたす事になる。しかし若い人達の間では、祭りなどではリクリエーション的楽しみが主で、それが四〇〜五〇才代になると氏子意識が強く現われる。又、宮座などの氏子意識は志賀区の人達に特に強い。

#### ㊦ 冠婚葬祭

冠婚葬祭では、それぞれについてみると成人式（昔は元服）や年祝い（八十八、四十九・・・）の形式的な事は、年々派手に成っており、他社会で行なわれている行動と特に消費面などで共通性が出ており、又結婚式では、昔は家と家との結婚意識が強かったとみえ、労働や時間やお金がかかっていたのが、現在では、都会的結婚の形式の影響により昔より簡素化されたとの事で、又人々もそれを望み、結婚観においても本人の好きな様にと云う意見が八〇%以上も出ていた。表(4)、葬式においては他社会の行動と何等変らないが、ただ神社に対して「いや事をみせない」と云う氏子意識から神社の前を通らず裏道裏道を通るしきたりが現在も鳥民を大きく支配している。この事は町会の方でも何回となく廃止の話しが行なわれたそうであるがすぐ再発するとの事である。しかしその意識の強いのはやはり志賀区で実行するものは六〇%程度との結果を出している。表(5)

#### ㊧ 血縁集団からの行動様式

この血縁集団の中にもみられる行動を調査した所、血縁的意識が強く作用していると思われる。まず贈答関係からみた所、お正月とお盆の年二回、親族にかならず何かを贈ると云った結果が出た。表(6)。親族の中でも特に親と云った答えであった。この理由も昔から何んとなく続けていると云う事で、続けられている。又親せきづきあいをする範囲をみると表(7)のとおり冠婚葬祭、天災事故、その他些雑な出来事までもいったり来たりし、血縁の力を示していた。しかしこの地では島全体が血縁に近い為、地縁的關係と血縁的關係が入り乱れている事になる。自分の親せきとして二〜三割等までを特別につきあい、後は徐々にそのいったり

来たりする回勲や形式的行動がうすれ、それが最終的には地縁的關係と結びついていく様であった。

(五) 地縁集團に基づく行動様式

地縁集團の行動様式の一つとして結いを講べた所、この志賀島ではこれは「かせじ」といわれ、表(8)の如く近所の天災事故、婚葬、特に家の建築に対しては仕事を休んでも行く所に持物がみられ、最近では親族による手伝い事の範圍が大きく支配して、近所同志による手伝いは大きな出来事の場合のみになっているが、都市生活と比べれば、様々の行動の範圍にはそれ相応の広さが、地縁的理由によってであれ、伝統的理由によってであれ、なおみられた。

(六) 組合、会合の組織

資本主義經濟の發達により今までの自然村内部の自給自足では生活維持が困難になった為、そこで資本主義經濟に対抗する意味から組織的にこの島においても組織を整合的、合目的に形成した。

① 仕事に關係する組合組織

漁業協同組合、農業協同組合、果樹部会、産業(商工)組合、イチゴ部会、ワカメ組合、アマ組合、そこびき網組合、ノリ組合など

② リクリエーションと年令別会合

子供会、学生会、青年團、婦人会、始会、未亡人会、老人会、農業青年連合、漁業青年連合、農業婦人連合、漁業婦人連合など

③ その他行政、防衛的意味からの組合

隣組合、消防團、女子消防團、救済組合などが縦横にくまれている。表(9)。現在、これらは大きく島民の生活の中にはいりこみ、團結する力が非常に強く、又そうならざるをえなかった。①の諸組織は、島部で一番大きな團結力を持ち、逆に島民はそれらによってしはられている傾向にある。明治維新後、資本主義體制に伴ない島部も島外と同様に第産業の職業を一つにまとめあげ、内部交渉から外部交渉を伴なう様になり、そこで新し

い経済対抗処置から生まれた外部的影響による社会意識と内部の地縁的社会意識による組織行動が存在するに至る。従って外部との接触においては経済的合理的行動を取る結果を示した。②の年令別にみる組織は地縁を利用して縦横に組織され島民はかならずそのいずれかに属しており、又参加していた。それにおいてはリクリエーションや講習会など何かと趣味的会合の傾向を島と云う小社会の枠の中で運営されまわっていた。しかし志賀区の中には、職種の異なりが若い人達の間に徐々に生まれて来ており、それが時間利用や考え方にずれを生み出し、参加しにくくなる傾向をも持っていた。だが内容的には近代的事業を取り入れていたが、その根本には、地縁的社会意識による地がためによる作用が多分にみられた。③は強制的に参加する組織で、これもある面では一定の年令に適合した人達が参加するもの様になり、行政面にしても例がしかの役を持っている人達の参加が多い様に大要組織的に行なわれ、又消防団では、この地では昔大火が多かった為、組織化は非常によくまわって行なわれている。組織がこのようであることは、出席率が一〇〇%に近い事からも理解できる。

以上の調査結果からみる年中行事とか神仏信仰あるいは血縁集団、地縁集団内における行動様式には伝統的社会意識に作用される面が非常に強く感じられた。しかしながら元服（成人式）あるいは結婚と云う様な社会的行動の面になると近代的社会意識の影響が現われ、おり、さらに経済的な組織になると地縁集団の結束力を利用してゐるもの、それは資本主義経済にみる対抗組織であるからして、経済的合理性を追求すると云う近代的社会意識が非常に強い。換言すれば、近代的社会意識の侵透はあるが、自分達地域社会の内部においては、伝統的社会意識が強く作用しており、他社会との関係においては、近代的社会意識の影響が強いと考えられるのである。個人内部について云えば、この二つの意識が矛盾する事なく、融合して内在する様に思われる。こう云う事は、他の多くの日本農漁村にも妥当するのではないかと思う。

別表 I 伝統的社会意識調査結果

(1) 年中行事

月	集団参加		個人参加	
	旧	新	旧	新
1月	歩射祭、恵比寿講	成人式	正月、倉開き、七草、二十日正月	
2	氏神様祭り		初午、節供	
3			ひな祭、彼岸	
4	おたいし様、春祭			
5	おこもり		節供	
6	さなぼり			
7	おこもり、祇園祭、ろくがっこう、お不動様、龍宮祭			
8	七夕祭		お盆	
9		運動会	風止め、彼岸	
10	おくんち、男山祭			
11	氏神様祭り		七五三	
12			お寺もち、年越し	

(2) 職業別年中行事

職種	行事
漁業	恵比寿講、龍宮祭
農業	初午、おこもり、さなぼり 七夕祭、風止め
神仏関係	歩射祭、氏神様祭、彼岸、おたいしさま、春祭、ろくがっこう、お不動様、祇園祭、お盆、おくんち、お寺もち

(4) 結婚観

地区	理由
志賀区	イ-45 ロ-10 ホ-4
弘区	イ-12 ロ-1
勝馬区	イ-9 ロ-3
合計	イ-66 ロ-14 ホ-4

理由 イ-本人の好きな様に、ロ-親の意見どおり、ハ-家同志、ニ-他所の人、ホ-同島人、ヘ-その他。



(5) 葬 式 観

葬式の時に本通りを通らぬ方がよいか

	よ い			否		
	合計	理 由		合計	理 由	
志 賀 区	39	イ-1	ハ-16 ニ-21	17	イ-15	ニ-2
弘 区	4	ニ-4		9	イ-6	ニ-3
勝 馬 区	3	ハ-1	ニ-3	6	イ-3	ニ-3
合 計	46	イ-1	ハ-17 ニ-28	32	イ-24	ニ-8

理由 よい-イ-たたりがあるから ローいやな事をしたくない  
ハ-昔からやっているから ニ-神様に悪い ホ-  
人が云う

否 -イ-何て事ない ローやめるべき ハ-ばかばかし  
い ニ-その他

(6) 贈答関係(贈答をするか)

	す る	時 期			相 手 理 由							し ない	理 由 簡素化
		8月	12月	1月	親族	世帯	葬	から	世話	仕事	返礼		
志 賀 区	53	53	52	1	49	13	9	49	13	8	1	3	3
弘 区	13	13	13	0	13	1	0	13	2	0	1	0	0
勝 馬 区	9	9	9	0	8	3	3	8	3	3	0	0	0
合 計	75	75	74	1	70	17	12	70	18	11	2	3	3

(7) 地区別、親戚づきあい状況

	し てる	冠	婚	葬	祭	病 氣	災 事	家 建	引 越	出 産	旅 行	祝 事	聖 が えり	し ない
志賀区	56	56	56	56	15	56	56	56	56	56	55	55	51	0
弘 区	12	12	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12	1
勝馬区	9	9	9	9	4	9	9	9	5	9	9	9	9	0
合 計	77	77	77	77	30	76	77	77	77	77	76	76	72	1

(3) 地区別年中行事参加状況

年中行事名	志賀区		弘区		勝馬区		合 計			
	参加	不参加	参加	不参加	参加	不参加	参加	%	不参加	%
正月	100	0	100	0	100	0	78	100	0	0
倉開き	0	100	0	100	33	67	3	4	75	96
七草	71	29	46	54	67	33	52	66	26	34
恵比寿講	73	27	93	7	0	100	53	68	25	32
歩射祭	91	9	46	54	69	31	64	82	14	18
成人式	65	35	91	9	100	0	56	72	22	28
二十日正月	65	35	54	46	46	54	47	60	31	40
初午	80	20	91	9	67	33	63	80	15	20
氏神様祭	53	47	87	13	67	33	41	52	37	48
節分	34	66	9	91	33	67	24	30	53	70
ひな祭り	55	45	11	89	69	31	37	46	41	54
彼岸	100	0	100	0	100	0	78	100	0	0
おたいし様	86	14	93	7	93	7	69	89	9	11
春祭	25	75	89	11	54	46	27	34	51	66
節供	68	32	89	11	93	7	57	72	21	28
おこもり	36	64	43	57	93	7	33	41	45	59
ろくがっこう	41	59	91	9	31	69	36	46	42	54
お不動様	18	82	91	9	0	100	20	26	58	74
龍宮祭	25	75	93	7	0	100	24	30	54	70
祇園祭	73	27	11	89	46	54	38	48	40	52
おこもり	34	66	0	100	69	31	26	33	52	67
七夕祭	98	2	100	0	100	0	77	98	1	2
お盆	98	2	100	0	100	0	77	98	1	2
風止め	27	73	93	7	93	7	35	44	43	56
彼岸	100	0	100	0	100	0	78	100	0	0
運動会	77	23	57	43	100	0	53	68	25	32
おくんち	98	2	89	11	93	7	73	91	5	9
男山祭	71	29	9	91	7	93	43	55	35	45
七五三	41	59	43	57	31	69	30	38	48	62
氏神様祭り	34	66	91	9	54	46	25	31	53	69
お寺もち	68	32	93	7	93	7	58	74	20	26
年越し	94	6	43	57	100	0	67	86	11	14

(単位 %)

(8) "かせい"の参加と程度

	する	程 度	しない	理 由
志 賀 区	54	イ-2 ロ-18 ハ-48 ホ-31 チ-21 リ-40	2	イ-1 ハ-1
弘 区	12	ロ-3 ハ-12 ホ-0 ヘ-9 ト-12 チ-12	1	イ-1
勝 馬 区	9	ロ-4 ハ-9 ハ-8 ト-9 チ-9	0	0
合 計	75	イ-2 ロ-25 ハ-69 ホ-31 チ-38 ト-62 チ-72 リ-42	3	イ-2 ハ-1

する：イ-冠、ロ-婚、ハ-葬、ニ-祭、ホ-病気、ヘ-仕事の手伝い  
ト-天災事故、チ-家建て、リ-引とし、ヌ-旅行、ル-祝い事  
オ-その他

しない：イ-近所づきあいをしていない、ロ-めんどう、ハ-時間がな  
い

## (9) 組合、会合組織

	団体名	志賀区	弘 区	勝馬区
職 種 か ら の 組 合	漁業協同組合	18	11	0
	農業 "	19	8	8
	果樹部会	10	0	6
	イチゴ "	5	0	3
	ノリ組合	11	0	0
	ワカメ "	1	5	0
	アマ "	0	2	0
	そこびき "	0	3	0
レ ク リ エ ィ シ ョ ン ・ 年 令 別 組 合	子供会	26	5	6
	学生会	5	2	2
	青年団	12	3	3
	婦人会	48	12	8
	姑 会	13	5	4
	未亡人会	0	1	0
	老人会	16	7	6
	農青連	0	0	1
	農婦連	0	0	1
	漁青連	1	0	0
	漁婦連	1	6	0
そ の 他	隣 組	56	13	9
	消防団	13	2	3
	女子消防団	4	0	0
	救済組合	7	2	2

別表2. 調査対象者状況

(1) 部落別対象者数

	戸数	名 前 数
志 賀 区	56	折居10. 坂本14. 小林5. 中島4. 中西4. その他19.
弘 区	13	松田6. 今泉5. その他2.
勝 馬 区	9	鍋島2. その他7.
計	78	

(2) 性別・年齢別対象者数

	性 別		年 令 別							
	男	女	10~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	81~90
志賀区	17	39	2	12	12	11	9	6	4	0
弘 区	6	7	1	1	1	3	3	3	1	0
勝馬区	4	5	0	3	0	2	0	3	1	0
計	27	51	3	16	13	16	12	12	6	0

(3) 宗 教

	禅宗	その他
志 賀 区	53	3
弘 区	11	2
勝 馬 区	8	1
計	72	6

## (4) 世帯主職業

	漁業	農業	商業	会損	農・社員	漁・農	漁社員	職人	なし
志賀区	22	11	2	17	1	0	0	0	3
弘区	5	6	0	5	0	1	1	1	0
勝馬区	0	4	0	2	2	0	0	1	0
計	27	21	2	24	3	1	1	2	3

## (5) 親族関係

## (6) 結婚前の居住地名

	親族関係		結婚前の居住地名				
	本家	分家		志賀	弘	勝馬	その他
志賀区	40	16	志賀区	41	0	2	13
弘区	11	2	弘区	1	10	0	2
勝馬区	5	4	勝馬区	0	0	8	1
計	56	22	計	42	10	10	16

## (7) 調査対象者学歴

	小学校	高等小学校	中学	高校	大学
志賀区	10	17	14	14	1
弘区	3	7	2	1	0
勝馬区	0	6	1	2	0
計	13	30	17	17	1

## (8) 家族構成人員

	2人	3	4	5	6	7	8	9	計
志賀区	2	10	11	10	17	4	0	2	56
弘区	0	0	3	2	6	0	1	1	13
勝馬区	0	0	1	2	1	3	2	0	9
計	2	10	15	14	24	7	3	3	78

## (9) 地区別役職者数

	農協 関係	漁組 関係	町内会	行政	クリエ ーション	官関係	その他	無
志賀区	4	5	5	7	6	3	2	29
弘区	1	2	1	1	4	0	0	7
勝馬区	3	0	1	1	1	0	0	4
計	8	7	7	9	11	3	2	40

## (10) 地区別・面積別土地所有状況

	1反~	2	3	4	5	6	7	8	9	1町	2町	なし	不明
志賀区	5	1	3	1	3	1	3	1	0	3	1	36	0
弘区	3	0	1	3	0	1	0	0	0	1	0	3	1
勝馬区	1	0	0	0	0	1	0	1	0	4	0	1	0
計	9	1	4	4	3	3	3	2	0	8	1	40	1

## (11) 収入範囲(年間)(単位:万円)

	10~30	31~60	61~100	101~150	150~	不明
志賀区	2	11	17	7	13	5
弘区	0	1	6	4	2	0
勝馬区	0	0	5	3	1	0
計	2	12	28	14	16	5

## (12) テレビ、新聞

	テレビ		新聞			
	有	無	西日本	フクニチ	その他	無
志賀区	56	0	30	18	9	3
弘区	13	0	7	1	1	0
勝馬区	9	0	6	1	3	3
計	78	0	43	20	13	6